



創立151年

わにっこり

教育目標 わたしから考える子 にこにこ元気な子 つづけてがんばる子 こころを合わせる子

和邇小だより 令和6年 10月号

児童数382名 文責 澤村幸夫



和邇小学校の校庭には、鮮やかなオレンジ色をしたキバナコスモスが満開です。9月でも残暑が続き、子どもたちの外の活動が制限されていましたが、ようやく落ち着きを見せてきました。校庭の草花を見ると、季節は確実に移り変わってきています。

10月は1年間の折り返し地点ですが、この季節は物事に集中して取り組むことに適した時期です。芸術の秋、スポーツの秋、読書の秋、食欲の秋、などと言われます。

さて、「〇〇の秋」の中で、特に注目したいものが「読書の秋」です。秋は読書に一番適した季節であることから由来しています。

つい先日、文化庁の調査による「大人の読書離れ」が大きく報道されました。1か月に読む電子書籍を含む本の数を尋ねたところ、1冊も「読まない」と答えた人の割合が62.6%で5年前の47.3%から15ポイント余り増えて過去最高となりました。ほぼ3人に2人が本を読まないということです。また、本を読んでいると答えた人を含めても読書量が「減っている」と答えた割合は69.1%で、こちらも過去最高となりました。その理由を聞いてみると、「やる事が多すぎて時間がない」「仕事や家事、子どもの用事があり時間がないため」「本を読みたいと思うけれど、時間が空くと結局他にやりたい事が多いから」「どんな本を読めばよいか分からず探すのが面倒に感じる」「スマホばかりいじっていて、本を読まなくなった」という意見が多いようです。



その一方で、子どもたちの読書量は増加傾向にあることが分かりました。全国の小学4年生から6年生が1か月に読んだ本の冊数は12.6冊で10年前の10.1冊と比べると2冊あまり増えています。中学生は月平均5.5冊で、10年前の4.1冊から1冊ほど増えて、調査開始以来、最も多くなったそうです。その要因として考えられるのは、「乳幼児期からの読み聞かせや読書体験が増えた」「読書に興味を持てる取り組みが増えている」と全国学校図書館協議会は分析しています。

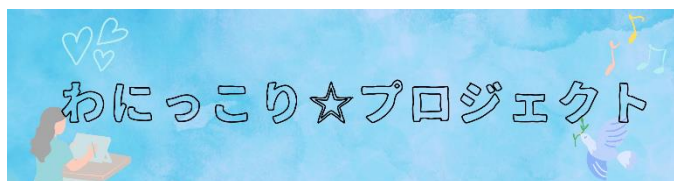
何年も前から、子どもの活字離れや国語力の低下、対話による問題解決能力の低下などが指摘されています。読書活動には、これらの力を高めるだけでなく、豊かな心と確かな学力を育むための大切な取り組みです。子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力や創造力を豊かなものにし、人生をより幸せに生きていく上で欠くことのできないものです。

今の時代は、テレビやゲーム、スマートフォンなど、読書以外に子どもたちを魅了するものがたくさんあります。現実の社会では、これらを否定することはできません。むしろ両者がうまく共存できる方法を探っていく必要があると思います。和邇小学校では、地域のボランティアの皆様による、朝・昼の読み聞かせ活動、図書室の整理、また、読書貯金や和邇図書館からのミッケル号による学級文庫など日常的な取り組みをしています。

「読書の秋」は子どもたちだけのものではありません。忙しい毎日の中で、ちょっとした時間をつくり、みなさんで「読書の秋」を楽しんでみてはいかがでしょうか。



学校のラミーノーズテトラ
本文との関連はありません。



大津市学校夢づくりプロジェクトの一環として、和邇小学校では、「わにっこり☆プロジェクト」に取り組んでいます。これは、子どもたちの願いである「わにっこり(和邇小学校のマスコットキャラクター)を町中に広め、誕生日をお祝いしたい」というものです。和邇商店街連盟と連携させていただき地域連携型の取り組みとなりました。

内容はというと、

- ①商店街で買い物をすると、わにっこりティッシュがもらえる ②店に間違いさがしや塗り絵を置き、お客さんに楽しんでもらう ③店に顔出しパネルを



置き、楽しんでもらう

- ④スタンプラリーを行い、商店街をまわる

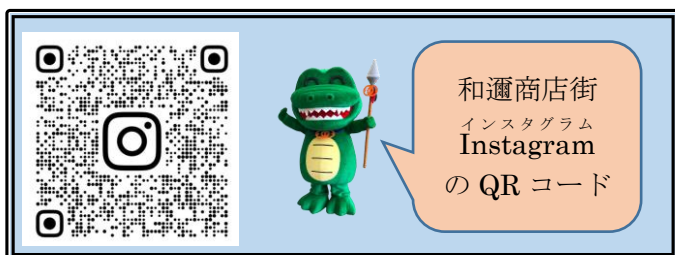
とわにっこりシールが

- もらえる ⑤店にあった

わにっこりポスター

- をはり、わにっこりとお店をアピール ⑥街灯に旗を立て、和邇小と商店街のコラボを宣伝、アピールする ⑦Instagramでわにっこりがお店を宣伝 ⑧妹子祭で店を出し、商店街を盛り上げる。

12月16日には、わにっこ集会で、13歳の誕生日を全校でお祝いします。



和邇小学校のホームページをご覧ください。子どもたちの様子を掲載しています。

学校だより「わにっこり」のカラー版は、和邇小学校のホームページから「学校便り」をクリックしてください。



和邇商店街連盟のいろいろなお店に、子どもたちの作品が展示されています。

10月は3年生の作品です。ご協力いた

だっている地域の皆様、ありがとうございます。

1年生 京都水族館 9/27

1年生は京都水族館に出かけました。みんなで決めた約束をしっかりと守りながら、多くの魚や生き物にふれあい、楽しい1日を過ごしました。



やはり水の世界には特別な力があるようです。大きな水槽の中を泳ぐ魚の姿は、私たちが癒しの世界に連れていってくれます。当日の様子を短い動画にまとめました。左のQRコードからご視聴ください。

結丸プロジェクト(世界一周ヨットの旅)とロケット教室



「夢を持ち続けると、きっと叶う」ことを実証され、478日間の世界一周ヨット旅を実行された川本真さんに来校いただき講演していただくことになりました。また、同日に、卒業をひかえた6年生を対象にロケット教室を行い、全校で打ち上げを見守りたいと思います。保護者や地域の皆様も、ご希望がございましたらご参観ください。詳しい内容は後日ご案内いたします。

11月26日
実施決定!!

シリーズ 「未来への扉」 第7弾 「自分軸を持つ」

このコーナーは、子育てと子どもの幸せをサポートする情報を提供するニュースレターです。子育てのヒントやこれからの時代に大切にしたい教育の話、健康で幸せな生活に役立つ情報を掲載したいと考えています。子どもは「地域の宝」です。未来をたくましく生きる子どもたちにつけてほしい本当の力とはいったい何か、子どもが生涯にわたり

幸せに生きていくには、周囲の大人はどんな関わりを大切にしていけば良いのかについて、共に考えていきたいと思います。

第7弾は「自分軸を持つ」です。そもそも「自分軸」とはいったい何なのでしょう。自分軸とは、自分がどう生きたいのか、何を大切にしたいのかといった気持ちや価値観、その先にある目的のことを指します。最近はこの「自分軸」というタイトルを用いた書籍が多く出版されています。

私はこの「自分軸」を「自己決定」という言葉で置きかえて考えることが多くなりました。「自分はどのように思っているのか」「自分の進む方向を自分自身で決める」ことがいかに大切であるかに気付いたからです。

周りの人の気持ちを汲んだり期待に応えようとしたりすることは大切ですが、そればかりになると自分が本当にしたいことを見失ってしまいがちで

す。自分軸があると物事に対する自分の意見をはっきり持てたり、自分が心から好きだと思えるものを大事にできたりします。他人に流されることなく自分の価値基準で物事を判断できるようになります。

自分の価値観や望む生き方をはっきりさせて自分軸を持つと、多くのメリットがあります。一つ目は、人生の幸福感が高まります。意思決定を人に委ねず自分で決められるので、行動の結果に満足しやすく、幸福感の高まりにつながります。結果が良くなくても、納得ができます。逆に言えば、幸福であるためには自分軸を持ち、物事を自分の意志で決定することがとても重要です。

二つ目は、夢や目標を叶えやすくなることです。自分軸のある人はやりたいことやありたい姿をちゃんと持っていて、常にそれを意識して行動しています。日常生活の中で理想の実現に向けた行動が増えるため、そうでない人に比べて夢や目標を実現しやすくなります。

三つ目に、自己決定するときの判断が迷うことなく明確になることです。自分が何を大切にしているか、どうあれば幸せかを自覚していますので、大事な判断や難しい決断をしなければいけない時にも納得感を持って意思決定することができます。

これら3つをまとめると、自分軸を持つと、「チャレンジ精神が旺盛」になり、「周りの人から応援されやすい」ことにつながり、「自分の意見がはっきり言える」ようになります。反対に自分軸がないと、「やりたいこと、好きなことがわからない」「他人をねたみやすい」「人の目を気にしてあきらめやすい」ことにつながってしまいます。

では、いったいどうすれば「自分軸の持てる子」になるのでしょうか。私自身の考え（持論）では、「体験」と「対話」です。実体験を繰り返す中で、自分が価値を置くことを探すことができます。読書の中で自分が知らなかった価値観に出会うこともあると思います。また「対話」を重視し、常に「自己決定」できる機会を増やしていくことです。「子どもに自分で決めさせる」ということです。学校では、課題が見つかった時に、「どうしようと思っているの?」「このあとどうしたい?」という投げかけをしています。うまく見つけられない時には選択肢をいくつか用意して、自分で決めてもらいます。そういった日常の積み重ねが、「自分軸」を持つ子どもにつながると信じています。各ご家庭でも参考にいただければ、と思います。



学校のイエローストライプシクリッド
本文との関連はありません。



学校のスノーホワイト（シクリッド）
本文との関連はありません。